

前回検討委員会の主な意見及び対応について

○第1回にいがた交通戦略プラン検討委員会を平成29年8月3日に開催し、主な意見とその対応をまとめた。

	意見	対応方針
将来像・目標等	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟市の目指す交通のイメージを具体的に示すべき。 ○どのような状態になると目標が達成されたのかという視点が必要。 ○基幹公共交通軸（日の字）をわかりやすく市民に示していくことが大切 ○現在の戦略プランは、市民やオピニオン層への周知不足が原因となって、市民が交通施策の成果を実感できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民がイメージしやすいような将来像の図及び、評価指標や目標値を検討 ○立地適正化計画も踏まえ、本市における基幹公共交通軸の役割や位置づけをわかりやすく整理。 ○新たな計画では市民が効果を実感できるような施策を検討するとともに、わかりやすい内容となるような周知も行っていく。
事後評価	<ul style="list-style-type: none"> ○現行戦略プランの総括評価が必要。 ○ICカードデータなどを活用し、定量的なデータとして示せるようにすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事後評価をまとめた。【資料3】 ○評価指標に基づき可能なものについては定量的に整理【参考資料1】 ○ICカードデータについては必要に応じ、事業者からの協力をお願いしたい。
市民意見の反映	<ul style="list-style-type: none"> ○少数派の市民の声も反映できるような手法を取り入れた計画とするべき。 ○個々の市民の声を反映させ、個人満足度を向上させようとする態度が必要。 ○未来の新潟市の交通計画なので、若い世代の意見を取り入れた計画とするべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、アンケート調査を実施し、市民の声を反映していく。 ○市政世論調査結果における交通に関する部分を整理した【資料3】 ○実施予定のアンケート調査において、過去のアンケート調査では高齢者の回答割合が高いことを考慮し、若い世代を始めとした世代間の偏りがないように対象者を選定する
関連分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の免許返納・公共交通への乗り換えをハード面・ソフト面も含めて支援できるような計画としてほしい。 ○タクシーと自動車間に（相乗りなど）新たなモードも想定しておく必要がある。 ○基幹公共交通軸沿線に都市機能を集約させるため、立地適正化計画などと連携した戦略が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化が進展する中で重要な課題と捉えており、担当部署（公安委員会&市民生活課）との連携強化策等も含めて検討する。 ○近年急速に脚光を浴びている動向であり、公私の境界に位置するモードについては他都市の事例なども参考に研究する。 ○国の手引き等においても立地適正化計画を始めとした他分野との連携が重要視されており、本市においてもそれを踏まえつつ、まちづくりと連動しながら検討する。